令和４年度　文京区立青柳小学校

第５学年　授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国語	○物語文や説明的文章の要旨を捉えられるようにする。 ○説得力のある文書を書く。 ○漢字や言葉の特徴やきまりを正しく理解させる。 ○話す･聞くの指導を重視する。 ○丁寧な字を書くようにさせる。	・場面や段落ごとに重要な語句に着目して読み、話の中心を捉えられるようにする。 ・ノート指導の充実を図り、物語の登場人物の気持ちや、文章の要約を自分なりに表現させる。 ・実際にあったことや、具体例・引用等と、自分の考えを区別して書く。文章を書き終えた後は、必ず推敲させる。 ・学習した言葉の特徴やきまりを授業の中で繰り返し振り返る。 ・できる限り習った漢字を使って文章を書く。 ・言葉の順序を工夫させたり、表記（漢字･平仮名･片仮名）の仕方を考えさせたりする。 ・話の構成を考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。また、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ・宿題の漢字学習や授業用の丁寧なノートの紹介をし、丁寧に書こうという意欲をもたせる。	○重要な語句、言葉の意味や決まりを確認しながら学習を進めることで、話の中心を捉え、文章の内容を正しく理解することにつながった。 ○話の中心やキーワードから登場人物の気持ちを想像して書いたり、文章の要約に取り組ませたりしたことにより、表現力の向上につながった。 ○国語に限らず、文章を書き終えた後は、文章を読み返し、推敲するように声を掛けたことで少しずつ習慣になってきている。 ○前時の学習の振り返りを行ったり、言葉の特徴や決まりを繰り返し取り上げたりすることで、言語理解の向上につながった。 ○年間を通して、書写の学習も活用し、丁寧な字を書くように指導することができた。 ▲話し合い活動の指導はできたが、もう少し定期的に話し合い活動を行い、回数を重ねていく必要がある。
社会	○適切な資料を集めたり、選んだり、そこから必要な情報を読み取ったりできるようにする。 ○社会的な見方･考え方を働かせながら、社会的事象について解決する力や、選択・判断する力を伸ばしていけるようにする。	・どんな資料が必要かを児童に考えさせ、資料集やインターネットを使った資料集めを行う。 ・電子黒板を利用した効果的な資料提示を行う。また、その資料から特徴や考察をノートやワークシートに書く指導を繰り返し行う。 ・課題について、見通しをもって追究させることで、児童が社会的な見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるようにする。また、比較・分類など様々な追究の方法を示しながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることができるようにする。	○電子黒板を活用して資料提示を行ったり、インターネットを利用して資料集めを行ったりしたことが、児童の意欲向上につながった。 ○資料を活用したノート指導を行ったために、資料の読み取りや考察の力が伸びた。 ▲社会的事象を様々な視点から多面的に考えたり、社会的事象と自分とを関わらせたりすることで、より問題意識をもちながら学習に取り組めるようにしなければならない。
算数	○基礎基本となる学習理解の定着を図る。 ○課題に対する自分の考えをもたせる。 ○多様な考え方や表現の仕方や捉え方ができるようにする。	・習熟度別指導で児童の習熟に合った指導を展開する。 ・習熟度を測るテストを定期的に行い、習熟の度合いを明確にする。 ・課題把握、自力解決、練り上げ、まとめ、振り返りの指導の流れを一貫して行い、自分の考えをもたせる場面を作る。 ・問題を解くことだけを目指すのではなく、いくつもの方法で問題を解いたり、様々な解き方を説明したりする授業を展開する。学びを整理、比較、統合することで、深い学びに迫る。	○いくつもの方法で問題を解いたり、様々な解き方を説明したりする授業を展開することで、考える力が伸びた。 ○自分の考えをまとめ、友達の考えと比較しながら理解を深めることができつつある。 ○積極的に数直線図を活用することで、自力解決や考えの説明に図を使う児童が増えた。 ▲学習の理解や定着に個人差が大きく見られる。児童一人一人に寄り添ったきめ細かい指導を展開していかなければならない。

理科	○問題解決学習のプロセスを定着させる。 ○実感を伴った学習活動を充実させる。 ○自然を愛する心情や態度を養う。	・課題、方法、予想、実験（観察）結果、考察という問題解決の流れを明確にした授業を展開する。児童が解決の方法を発想し、そこからプロセスを組み立てられるようにする。 ・具体物を用いたり、実験を積極的に行ったりし、実感を伴った理解をさせるようにする。 ・自然の事物・現象について追究し、主体的に問題解決させることにより、生命を尊重する態度を養う。	○具体物を用いた実験をしたり、身近な事象について考えたりすることで、実感を伴った学習を展開することができた。 ○植物や自然の現象などについて、思うように実験できないときにICTを有効に活用することで、理解へとつなげることができた。 ▲時間をかけて実験を行ったり、学習内容を振り返ったりすることで、理解を深めさせたい。
体育	○自己の技能の高まりを実感させる。 ○友達と学び合う学習活動を取り入れる。 ○自己に応じた課題をもち、運動への意欲を高めるようにする。 ○友達と楽しく運動することを通して、人間性を高める。	・技能ポイントを明確にし、具体的な声掛けや、示範を取り入れる。 ・学習カードを活用し、見合い、教え合いの視点を明確にしながら、活動していく。 ・１時間ごとに自分のめあてを考えさせ、その時間での達成の度合いを振り返り、達成感を味わわせていく。 ・進んで学習に取り組ませるための指導や声掛けの工夫をする。 ・約束を守り、公正に行動させる。 ・友達と協力して活動し、自分の役割を果たそうとする活動をしていく。また、友達の考えや取組を認める場面を設ける。	○技能のポイントを明確にして、学習カードを活用したことで、「できた」という経験につながった。 ○積極的に学び合う学習活動を取り入れたことで、学び合う大切さを実感させることができた。また、技能の伸びにもつながった。 ○整列の仕方・準備運動・用具の扱い方・準備と片付け、安全に運動するために大事なことなどで、安全に気を付け、友達と協力しながら、約束を守って活動することができるようになってきた。 ○苦手な運動にも果敢に挑戦する児童が増えた。
総合	○自ら調べ進めていこうとする態度を育成する。 ○他者と協働して調べたことを発表したり共有したりする活動を充実させる。	・児童や社会の実態を考慮し、児童の「調べたい」という意欲を高めることができるテーマを設定する。 ・タブレット、紙芝居、劇、レポート等、発表の仕方を多様化したり、調べたことを共有したりすることで、他者と協働しながら課題を解決しようとする学習活動を充実させる。	○児童や社会の実態を考慮し、移動教室、金融教育などをテーマに設定した。また、地域防災マップ作りでは、フィールドワークを実施することができ、児童の意欲を高めることにつながった。 ○調べ方やまとめ方を多様化することで、活動が充実した。
道徳	○学校や児童の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開する。 ○他者の考えを受け止め、自分の考えを深められるようにする。	・児童が身近に感じることのできるような教材を提示、開発していく。 ・児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れ、自分事として話し合いが行われる授業展開にしていく。 ・(ペアやグループ、) クラス全体での意見の共有を行い、話し合う活動を充実させる。	○クラスの課題や児童の身近に感じていることについて、教材を通して考えることができた。 ○自分の事として考えられる児童が増えた。 ▲その時間だけの学習ではなく、生活につなげられるように指導を工夫する必要がある。

外国語	○外国語に興味、関心をもたせる。 ○積極的に他者とコミュニケーションをとれるようにする。 ○言語や文化について体験的に理解を深めるようにする。	・授業開始時に、warm up の時間を十分とり、歌やチャンツなどで、リズムに乗って楽しく始められるようにする。 ・ゲーム等を行い、ただ楽しむのではなく、言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な場面や課題を設定する。また、児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れていく。 ・外国語の音声やリズム、日本と外国との生活習慣や行事などの違いを知る機会を増やす。	○授業開始時に warm up を行ったため、英語のリズムや発音に自然と親しむことができた。 ○ＡＬＴと連携を図りながら、ゲームやクイズ等の活動を多く取り入れ、楽しみながら正しい発音や言い方を学び、理解を深めることができた。 ▲英語の理解は進んだが、定着までには至らなかった。授業だけでなく、教室内や校舎内に英単語を掲示するなどして、日常から英語に親しむ環境づくりが有効だと思われる。